

The background of the slide is a close-up photograph of green mulberry leaves with several white silkworms (Bombyx mori) crawling on them. The image is slightly faded to allow the text to be clearly visible.

養父市地域おこし協力隊 活動発表

2025年2月19日

石井明日香



石井明日香

2022年 4月

愛知県名古屋市から移住
養父市協力隊就任(養蚕部門)

~2025年4月まで任期

活動地域

大屋・建屋が中心

きっかけ

趣味：イモムシの飼育



- ・ 学生時代にお蚕の卵が通販で購入できることを知る
 - ・ 夏休みにお試しで飼育 → と て も 楽 し い
- 養蚕に興味を持つ
- ・ 就活シーズンに突入 進路に悩むがお蚕さんに関わる仕事がしたい
 - ・ 養父市の地域おこし協力隊応募を発見
 - ・ 自分で養蚕ができるチャンス？ → 養父市に引っ越し



1年目(2022年)

**大屋蔵垣 かいこの里にて棚飼い養蚕の手法と
上垣守国氏の歴史や養蚕秘録についてを学ぶ**

2年目(2023年)

能座で桑畑の整備、養蚕研修に参加し6万頭を飼育

3年目(2024年)

**建屋にて1万頭の飼育を開始、畑を拡大
愛媛県西予市にて現役の農家に養蚕方法を学ぶ**

かいこ

蚕 (*Bombyx mori*) とは



- ・ 蛾の一種
- ・ 家畜化された昆虫



生糸 = 絹(シルク) をとるために利用

着物など衣服、石鹸・化粧水に加工

養父市と養蚕



養蚕の歴史(簡潔ver.)

中国が起源 約5000年前から利用



日本 弥生時代に伝来

以降、品種・技術の改良と発達が続く

1930年ごろ 日本は世界一の生糸輸出国に

養蚕技術の発達に養父市は大きく関係している

養父市と養蚕

上垣守国(大屋蔵垣出身)

福島県まで養蚕を勉強しに行く
各地で見聞きした養蚕方法等をまとめ
『養蚕秘録』を江戸時代に出版

||

養蚕の教科書

全国で読まれ、後の蚕業学校でも使用



☆挿絵が豊富

字が読めない人でも養蚕を学べる

ヨーロッパに持ち込まれ
フランス・イタリア語訳版も出版

養蚕の現状

ピーク：200万戸以上 → 現在(R6年)： **146 戸**

衰退の原因

- ・ 化学繊維の誕生
- ・ 着物の需要低下
- ・ 安い海外産シルクの流入 など

養父市内に養蚕農家は 0

詳細はかいこの里にて... 

1年目(2022年～) かいこの里にて飼育開始



2年目(2023年～) 桑苗を植える



2年目(2023年～)

学校等で繻を使った糸引き体験・人形作りの講義



2年目(2023年～)

茨城県阿見市での養蚕研修



3年目(2024年～) 建屋にて飼育開始



3年目(2024年～)

西予市での養蚕研修



今後の課題

- ・ 伝統的な手法による養蚕の保存、興味を持ってもらうための工夫
- ・ 桑畑の更なる拡大
- ・ 猛暑への対策
- ・ 蚕具の確保

建屋・能座で養蚕を引き続き行うとともに、
かいこの里で養父市の養蚕の歴史・文化の発信にも尽力していきたいです